

vol.22
2014年
4月



江戸川区
聞き書き
研究会

聞き書き研究会とは、江戸川区で生活し、江戸川区を愛し、強く逞しく生きた女性の姿を江戸川区女性センターの区民ボランティアが「聞き手」となって編集し、文書として残すための活動です。

「区民の立場で地域と行政をつなぐ」 -わたしにできることをこれからも-

まつ かわ かおる
松川 香

1942年(昭和17年)
愛知県西尾市生まれ
鹿骨在住



■ 上京して出会った素敵な仲間たち

純粹に見合い結婚だったんです。上京し、最初に住んだのが江戸川区の松本町。そこに夫が住まいを用意してくれましたから。ほんとに右も左もわかんない、親戚も知り合いも1軒もない、ただ夫だけが頼りの生活が続いたんです。昭和42年に男の子ができて、子育てが始まると、忙しさで気が紛れましたが、2年後には次男が生まれました。

東京は生き馬の目を抜くところだと思ってましたので、何年間かは本当に寂しい日々で田舎に帰りたいなあと思いつつながら子育てしてはいたんですけど、長男が幼稚園に入って、友だちができて、それでなんかちょっと元気になって、昔の自分が出てきたかなって。小学校は幼稚園で顔見知りの大先輩がいらしたので、ちょっとほっとしながらの入学だったんです。まあ、やはり専業主婦ということで、PTA役員とかやりました。

松本町の家は古かったから、12年くらい住んだらもう傾いてきたんで、都営新宿線が近くを通るとい話を聞いて、昭和53年に今の鹿骨^{しかほね}に越したんです。越して何日も経たないうちに町会長の訪問がありました。松本町の役員さんから紹介されたらしくて、いきなり青少年委員というのをお願いしたいとのことでした。突然で「えっ」て感じだったんですけど、家にいましたし、早く慣れなくてはいけないという気持ちと、私はもうここに永住かなと思っていたので、子どもたちに「どーお」って聞いたら、「飯さえ作っておいてくれたらいいよ」って言われ、夫も「子どもさえ了解してくればいいじゃない」って。「じゃあ、お手伝いさせていただきます」ってということで、最初はその青少年委員でしたね。

■ 区民ガイドで24年間

青少年委員は、区民館単位の地区委員会のメンバーにもなり、自然と指導的立場に置かれちゃうんですね。青少年委員は2期4年間やらせてもらい、それから2年後かな、鹿骨事務所の係長から電話がかかってきて区民ガイドの話があったの。どんな仕事かわかりませんでしたが、説明をするからということで区役所に行きました。区内

めぐりのバスガイドで、区民に身近なママさんたちにやってもらいたいということでした。これは無理かなと思いつつ電話したら、「やってみないとわからないですよ」と言われて、結局出発したんですよ。

富士急観光のベテランガイドさんに、バスに乗車するエチケットや心構えを教わりました。ガイドの内容は全て自分で勉強しました。もちろん教科書はありましたよ、分厚いのが。40代で若かったでしょ、頭に入りましたね。江戸川区の歴史、1回読めばわかるかな、そういうような年代でした。一生懸命勉強しましたよ。まず新聞を読むようになりましたね。隅から隅まで、ニュースを。行政に関しても、浅く広くで良いけれどわかってないと質問に答えられない。意欲があったもんだから、大変とか苦労と思いませんでした。何年後かには本当に楽しい仕事になりました。

10年過ぎた頃には自分なりにいろんな話ことができました。今日はこういう団体だからこういう話を、明日はこんなことを。行く場所、時間は決められているから、話題の持っていく方ですごく盛り上がりたり、喜んだり。区内めぐりは江戸川区の施設紹介が中心ですから、コースの中にフラワーガーデンとかはぐすところを1、2ヶ所入れるんです。親水公園も世界的に注目浴びちゃったじゃない、「これが汚いどぶ川だったんですよ。蚊が発生して水がよどむ、それがこんなきれいなところになったんです」という説明をすると、みなさんがほんとにびびりして。やりがいのある仕事でしたよ。丸24年ですか、平成25年3月まででしたからね。

■ 学びあう会をめざして

生まれたのは昭和17年2月、愛知県^{はす きたらよだ}幡豆郡吉良吉田(現西尾市)です。実家は町で一軒だけの小さな旅館で、祖母が明治の時代に始め、母が後を継ぎ、今は弟の嫁がやっておりますが。父は鹿兒島出身ですが大阪の海運会社に勤めていて、吉良吉田に出張で来て、長逗留したんですね。それで、娘だった母と、もう田舎に帰らないということと結婚したという話です。半農半漁の町ですから、戦争の時でも食糧難とかいう記憶はなかったですね。塩の生産がさかんで、豊かだったという印象です。

昭和23年に吉田小学校に入学。中学校は隣にある

